



第 16 号
平成 15 年 12 月
野木小学校同窓会編集部



ご挨拶

第42回卒(昭和26年) 杉山
同窓会長 田中庄之祐

同窓会員の皆様には愈々ご健勝にてそれぞれにてご精励の事と拝察申し上げます。

さて、今年度の通常総会において新田前会長の後任として選出されましたが、結局のところ羞恥をも省みずお引き受けしなければならぬ事とあいなりました。つきましては、各位の特段のご協力とご支援を賜りますよう伏してお願ひ申し上げます。

ふり返ってみますと、この会が当時の諸先輩の大変なご努力とご苦勞によつて昭和五十九年に設立されて以来、今年で早や足かけ二十年の歳月を重ねることになりました。また数年後には、開校以来、百周年の節目の年を迎えるの事をお聞きしております。

先輩の方々、および関係者のお力添えによつて逐次、校舎はもとより、周辺の環境も目をみはるよう立派に整備され誠に同慶のいたりであります。開校以来今まで、二百六十余名が野木の学び舎を巣立っていかれましたが、その間の歴代校長先生はじめ、諸先生方の献身的なご指導とご鞭撻に心から敬意を表したいと存じます。同窓生の名簿の中に、長年にわたり知事として県政のリーダーとして活躍され、その功績が認められて勲一等瑞宝章を贈られた中川平太夫氏の名前を目にするとき、改めてその偉大さを再認識すると共に、自負と誇りの念が一層こみ上げる思いがいたします。

この一世紀を回顧しますと、甚大な犠牲をともなつた戦争の渦中から漸く抜け出した戦後の食糧難、物資の不足をはじめとするインフレなどの混乱期、好景気にわいたバブル期から一転してのデフレによる景気低迷の長期化など、社会情勢に大きな変遷期があり、これを力強く生き抜いてこられた先輩の方々のご苦労は、如何ばかりだったかと頭が下がりが胸が締め付けられる思いであります。世界を見回しますと現在でもあちらこちらの国で戦火が上がり、尊い人命と財産が毎日のように失われている現実が沈痛きまわりなく断腸の思いであります。一方、児童数は、少子化傾向に一向歯止めがかからない状態で、近い将来国力の低下につながる不安が憂慮され行政の抜本的な対策が急務であると思慮しております。

舎を遠く離れてご活躍されている皆様にはこの会報が、同窓生および同級生との旧交を復帰、復活する機会につながり、またふるさとへの懸け橋の一助になれば幸甚に存じ、今後

この同窓会が会員各位の総力によつて愛するこの野木の里を舞台に尚一層発展の一途を辿ることを祈念して、言葉足りませんがご挨拶とさせていただきます。

同窓会長退任ご挨拶

第39回卒(昭和23年) 玉置
前同窓会長 新田 賢

会員の皆様におかれましては、それぞれの分野で日々ご活躍、ご精励のことと衷心よりお慶び申し上げます。

会を手伝えと声をかけて頂き、幹事として役員の間に入り、させて頂いたのがこの会との縁の始まりでした。

私こと、この度同窓会役員任期満了により、平成十五年六月をもって、会長の職を辞させて頂きました。歴代会長、役員各位をはじめ、会員の皆様には、長い間公私各方面に渡り格別のご指導、ご支援、ご協力を賜り、大過なく大任を終えさせて頂きましたこと、誠に有り難く心から厚くお礼を申し上げます。

以来、名誉会長に頂いた福井県知事の中川平太夫先生を始め、初代会長倉谷静夫先生、二代目喜多利夫先生、三代目福田善正先生、四代目田中栄一會長に、幹事、副會長として仕え、平成十一年から二期四年の間、會長を務めさせて頂きました。

最後にになりましたが、このたび会報十六号をお届けするにあたり、この発刊に際し寄稿いただきました方々はじめ、役員の方々、編集委員の皆様、および事務局を担当して頂きました先生方のご尽力に対し衷心より感謝申し上げます。特に野木の学び

この間、同窓会活動も会員や地域の皆様の多くの暖かいご支援、ご協力を頂き、母校の周辺施設や必要器材の整備をはじめ、本会固有の事業として「会誌」「会報」の発行を間断なく続けることが出来、同窓の「絆」の強化に素晴らしい成果を収めて参りました。これひとえに同窓会会員各位

のご支援の賜物であり感謝の誠を捧げずにはいられません。

近年教育環境も激変を極めておりますが、幸いにして、ご父兄、地域の皆様の理解と協力、優秀な学校教職員の適切な指導に恵まれ母校の経営は極めて順調に推移し、子供たちは澁刺として輝いて日々を送っており、ご同慶の至りであります。同窓生の一員と

いたしました。この良き環境が何時までも続き、子供たちの幸せが永遠なることを願わずにはいられません。

役員を辞めさせていただきましたが、一会員にもどり、田中庄之祐新会長、役員各位のご精進、ご活躍を願い、本会の発展、ひいては母校の永遠の不滅に向けて、会員各位と共に微力を捧げる所存であ

ります。変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。重ねて母校の発展、本会のご隆昌、次代を担う子供たちの健全なる成長を心から祈念して退任の挨拶と致します。

長い間お世話様になりました。有難うございました。 頓首再拝

旧職員からの便り

子どもと共に

岡本 瑞子

教員生活三十七年の最後の七年を野木小学校で勤めさせていただき、今深い感謝の念を持って思い出しております。ここに機会をいただき、ささやかな私の実践を振り返らせていただきます。

私の教員人生には、三回の転機がありました。

一回目は教員になって一年、毎晩十二時まで教材研究して、もうまく授業できない自分が教員を続けてもよいものだろうかと悩みました。悩んだ末、教師としてしか生きる術がない以上、無器用な私は他の方の何倍も努力するしかないと思ひ定めました。

二回目はその数年後、夏休みに行った研究会で神戸の岸本裕史先生の話を聞いたことでした。指導要領が変わって、半年かけて教えていたかけざん九九が二ヶ月で教えることになり、漢字や計算も難しくなった。それで、学校でドリルする時間がなくなった。三

十分から一時間の家庭学習をしないと学力は定着しない。家で、テレビやゲームづけにさせないで、二十分から一時間、復習や読書をさせ、家事分擔させることは、子どものため、日本の未来にとっても大切なことであると丁寧に話してくださったのです。今思うと岸本先生に、私は教師として、母親としても助けていただきました。

三回目は野木小学校で来ました。三十一年続けたクラス担任を外れて、図工や家庭科を教えることになったのです。図工の担任として張り切って一年生の授業に行った私にかけられた言葉は、「先生作って。」「描いて。」「できません。」 図工の授業は喜んでやってくれるものとはかり思っていた私が、悩んだ末にかんたことは、地域の題材と体全体で取り組めば、どの子も自分の思いを表現できるということでした。



主体的に学習できる子

学校長 森口良造

日毎に寒くなつてまいりました。同窓会員の皆様方には、益々ご健勝にてお励みのこととお慶び申し上げます。

さて本年は、十四名の教職員で、教育目標「輝きのある野木の子」実現のため、七十八名の児童の教育に当たっています。わたしは、学校経営案の中で、「確かな学力と素直な心」を最初に掲げ、とりわけ、自ら学んだり、自ら考え主体的に学習のできる児童を育成したいと考えています。それでは、皆様方の後輩に

あたる子どもたちの成長の一端を紹介させていただきます。

今年の野木地区民総合体育大会で、わたしは次のように挨拶しました。「二学期の始業式の時、わたしは子どもたちに『二学期は行事が多くあり、みんな協力し、心を一つにして頑張ってください。』という話をしました。そして、先生方には、『今年の体育大会では、子ども自身が自分で考え、自分の力で計画し、自分の手でやれるよう指導して下さい。』というお願いをしました。今

年の練習を見ていると、リーダーを中心に、全員が頑張つてやろうという意欲が出ているのがよく分かりました。また、休み時間に自主的に練習をしている組もありました。これから、練習の成果を見せて下さい。」と。

そして、この体育大会で子どもたちは、自分たちで種目を考え、応援を工夫し、素晴らしい団結力をみせてくれました。やればできるという自信で子どもたちは、ひとまわり大きくなったように思います。この経験を、教室の学習にも今後生かしてくることを期待しています。

最後になりましたが、同窓会員の皆様方の益々のご健康とご発展を祈念申し上げます。

赤く染まった北川の土手へ行き、首飾りを作ってから描いた彼岸花。

体育館のステージ裏の通路をまっ暗にして物を置き、探険した後描いたほらあな探険。

野焼き用粘土で動物などを作り、保護者からいただいたもみぎらを使って自分たちで焼いた素焼き。

そういう中で子どもたちが一番喜んだのが、武生の三昧のある山へ行つた時と、武生のお薬師さんでした。

皆様の子孫がしばらくお騒がせします。お許し下さいと手を合わせてから取らせてもらったつるや木の実のリース。樹齢三百五十年のたもの木に触り登って描いた大きな木。

武生の方のお世話になつて見せていただき描いた薬師如

六年前の四月、雨のよく降る日に新任式が行われた。故西川校長より紹介をしていただき、私を入れて三名の者がステージへ上がった。出口先生が挨拶をされた後、私も見

来堂、日月光菩薩、十二神将。

子どもたちは豊かな体験をさせていただき力強く表現できました。美しい自然と心暖かな地域の方々の中で、子どもたちと過ごせた日々は幸せでした。

心から皆様にお礼申し上げます。有難うございました。



心温まる野木の里

養護教諭 田辺啓子

童たちに挨拶をしたが、体育館の天井に落ちる雨音がにぎやかで、うまく伝わったか少々心配の残るスタートだった。しかし、その心配もすぐになくなり、人なつっこい児童

たちが、次から次へと私に声をかけてくれて、中には、「まあ、先生は新入りだけど他の先生に負けないよう頑張つてね。」

と、激励してくれる児童もいたことを記憶している。野木の子どもたちは、とても素直で働き者、そして、明るく元気があるので、私はいつも助けられていたように思う。私がいとも笑顔で過ごせたのは、子どもたちの笑顔を、毎日毎日見ることができたからだと思っている。

先日、機会があつて、野木地区体育大会を拝見させていただくことができた。そこには、かわい子子どもたちの姿はもちらんだが、なつかしい保護者の方々も勢ぞろいされ、私は、涙があふれそうなのをこらえたくらいである。今思えば、

これ程までに学校教育に対して、深い御理解と、多大なる御協力を得られた保護者を拝見したことがなかったように思う。役員の方は、昼間でもご自身の都合を学校側に合わせて、こまめにPTA行事等、種々の打ち合わせの為に足をお運びくださった。また、一般会員の方は、月々の自由参観はもちろんのこと、我が子のた

めと教育懇談会や教育講演会、PTA総会等、ほぼ全員の方が出席してくださった。三世代交流の日には、祖父母の方々、地域の老人会の方々に大変お世話になり、児童、教職員ともども有意義な時間を過ごさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいである。

平成九年度から平成十四年度までの六年間、私は、野木小学校に勤めさせていただくことが出来て、本当に幸せ者

会員からの便り

老人力

第33回卒(昭和17年)

上野木 倉谷 宏

思っております。

少子高齢化に歯止めからず、平成十四年度末には十五歳未満の年少人口が全体の約十四%なのに対し、六十五歳以上の老年人口は約十八%という新聞記事をみました。

先輩の方は沢山おられますが、私も七十四歳となり、老人の中堅(?)に仲間入りしました。何事によらず力を抜きキマ

ずに対処出来るようになり、老人力が身について来た証と

だと今でも思っている。願わくば、野木山に村里に、桜咲き、タンポポ、つくし、つ花すくすく伸びる頃、再び野木小学校に勤めさせていただきたい。心温まる野木の里に、帰ってみたい。



私は仲間数人で、春と秋、自然の美しさと人の温もりに触れられる秘湯めぐりを続け

ております。山あいには抱かれ
た一軒宿や、潮の香と、日本
海に沈み行く夕日を眺めなが
らの露天風呂、そして地方色
豊かな料理を味わうのを楽し
みにしておりますが、これも
老人力あつてのことだと思つ
ております。

雑感

第42回卒(昭和26年)

兼田 福井康 二

今世紀の頭頃から特に最近
にかけて種々な天変地異が異
常な程に知らされています。
中でも火星で、太陽系の第四
惑星とされ地球の外側を六百
八十七日で公転していると説
かれ、そんな今年は、実に六
万年ぶりの二十一世紀最大で、
特に八月二十七日には地球に
大接近していると報じられま
した。興味のある方は夜明け
早く見られた方も少なくなか
ったと思います。また太陽に
もここ先月に黒い斑点が大き
く出初め異常な現象を発して
いるとも言われ、何か大ニユ
ースになりそうな昨今です。
地球上でも争いや戦いも後を
絶ちませんし自然の生態系も
変つて来たと学者間では話題

老人力には定義はないと思
いますが、若い力では満たさ
れないものを満たせるのが老
人力だと考えております。老
人力はマイナスの力と思われ
勝ちですが、私はプラスの力
として野木の里の良さを味わ
つていきます。

多い所です。でも今、この野
木の里に足腰を休め、日々暮
らさせていただいている事は
何よりも幸せな事ではないで
しょうか。

さて、縁あつて、大正十一
年発行の野木村誌の原本を拜
読する機会があり、その中には
候文や、変体仮名等で読みづ
らい内容の頁にもいろいろ資
料の文記がありました。野木
村の戸数が明治七年から出て
おり、三百八十四戸、同四十
四年には、三百六十五戸、大
正元年では、三百六十六戸、
同八年には三百六十二戸等記
されておられ、ちなみに今年の
四月では、三百三十一戸とな
つており明治初期と五十戸余
りが減少しています。次に、

村全体の田の面積では、三百
四十二町歩余りであつたと記
されています。人口では、明
治二十五年に男九百十六人、
女八百六十九人の合わせて、
千七百八十五人で男性が多か
つたし、大正七年には、男千
二十人と女九百七十五人の合
わせて千九百九十五人と記さ
れています。ちなみに今年の
四月では、男六百四十一人、
女六百八十二人の千三百二十
三人であり、大正初期と比較
で六百七十人余り減少してい
ます。昔の女性の少ないのは、
子育て、農事や家事、等に追
われて寝る間もなく苦勞が重
なり、過勞から短命であつた
のかと思われす。そんな概
念もあり、今、女性の立場が
法制化され、男女共同参画社

分教場の頃

第45回卒(昭和29年)

京都市 竹村洋 一

入学したのは戦後間もない
昭和二十三年、それも杉山の
子供だけが行く分教場である。
大きな桜の木が枝もたわわに
満開で迎えてくれた。今頃は
昨日のこともよく忘れるのに
当時の先生や友だち、周辺の

会(共生)の取組が全国的に
大きな課題として取組まれて
います。是非共この男女共同
参画社会を早く定着しなけれ
ばならない時であると思いま
す。公民館でも本年度事業計画
の中で、重点目標の一つに
掲げて取組を進めています。
あらゆる組織の中に女性が参
画し対等の立場で活動を高め
て頂く事が何より重要な時代
である訳です。村誌を読んで
いる時に、こんな事に気付か
され、また窓外を見上げながら
この里にいついまでも幸せと
そして更に、災いが少しでも
なくなる様に大難少難少難無
難に暮らさせて頂く事を念じ
求め、本会の更なる発展と「野
木の子」等の前途に幸多から
ん事を願いつつ結びとします。

んだ寂しい感じがするが、
毎日が賑やかで楽しかった。
大体勉強をするところとは思
つていない。ボール遊びから
かくれんぼ、缶蹴り、家から
着物を持ち出したの仮装かく
れんぼまであつた。分教場が
なくなつて久しいが、敷地が
残っている。あの桜、松、楠
がなくなつてはいるが、大きな
銀杏の木が往時を偲ばせてく
れる。敷地を見てこんなに狭
かつたのかなあと思う。子供
の目には広々としていた。も
つとも子供には敷地の考えが
ない。周辺の畑、山、川が校
庭の延長でそこが遊び場である。
いろいろ迷惑をかけたことも
あつたと思う。川にはきれいな
水が流れていた。夏になると
自分達で川をせき止め泳ぎ
場を作つた。魚もいっぱいいた。
モツ、アメ、ヤマゴそれにナ
マズ、ときにはウナギもいた。
小川に入るとフナにドジョウ、
特に色のきれいな小ブナ(タ
ナゴカ)が印象深い。あの魚
達はどこへいったのかなあ。
再び分教場へ戻つて校舎を
思い浮かべる。講堂があり、
その二階もあつたが、老朽し
ており二階は使われていなか
つた。講堂のまん中に補強の
ため柱が立つておりその柱が

二階まで通っていた。教員室と炊事場がそれぞれ講堂に接しており、廊下を渡ってただ一つの教室があった。正方形の平屋だが、床が特別に高くなっている。遊び場から隔絶して神聖な場所といった意味があったのかどうか。

この教室でも様々の思い出がある。寒い時期はストーブが焚かれていたが、そこに持参した弁当をかざし、ほこほこの昼食を食べたこと。近づけ過ぎて焦げてしまったこともあった。「カゴメの水兵さん」「里の秋」など、まだ教科書に出ていない童謡を時間があるとオルガンを弾きながら教えて頂いたことも。三年

ふりかえり思いつくまに

第45回卒(昭和29年)

小浜市 服部貞子

月日の流れの早さにおどろきつつ、はるか昔の「野木小学校」に思いをはせ、なつかしさがこみあげる感動の中から、思い出の一端をのべさせて頂きたいと思います。この度は寄稿の機会を与えて頂き有難うございます。頭にうかぶのは木造の校舎。正門をくぐる

が最高学年、その三年になった時、先生から「始業時間になつたら教室に入って自習するように」と伝えられた。あの時、気がつくとは始業時間かなり過ぎていた。しかし、遊びを途中で止めるわけには行かない。みんな考えて、学校の時計を止め、更に相当戻して遊びを続けた。こんなことが二回ばかりあつて先生は早くみえるようになった。世間はまだまだ必ずしも安定していない時期ではあつたが、先生や地域の人々に支えられ、山ふところに抱かれて、世相に煩わされることなく楽しい幼少期を過ごすことが出来ました。

ぎ小屋があり、みんな仲よく交替で世話をしたことなどを覚えております。また、図書室側の外の、しばを背負い本を読んでいる「二宮尊徳」の姿は子供ごころに頭の下がる思いがしたものです。この像だけが野木小学校の変遷をしつかりと見てきたことでしょうか。歩いての遠足。運動会。三期に行われた学芸会。このように記憶をたどっておりますと手しおにかけて教育にたずさわって下さった校長先生はじめ諸先生の顔々がいつそう懐かしく思い出されます。戦後少々社会の情勢がよくなくなるとはいえ、物資の揃わない不自由な時代でしたが皆んなで工夫し合い遊んだ楽しい思い出ばかりです。このような小学校時代の体験のお陰で厳しい社会にも、ほんろうされずにやってこられたと思うのです。

さて、私も二年前に還暦をすませました。その折には同級生とお伊勢さんにお参りし、小学校の思い出を語り合い、互いに消息を尋ねて旧交を温めあつたものです。小学校を卒業して五十年。小浜へ嫁いではや四十年。仕事、子育て……とかけ足

でやってきた今日ですが、自分一人の力だけでは生きてこられたのではなく、ここまで支えてくださった多くの方々、感謝せずにはいられませんし、ふるさとのありがたさをしみじみと感じます。母校も白亜のスマートな建物に変わり昔の面影をとどめる物はありませんが私の心の中には一生忘れることのない野木小の六年間の思い出がしつかり残っています。

私の野木小学校

第55回卒(昭和39年)

名田庄村 早川サカエ



私が野木小学校を卒業してから四十年近く過ぎる。傍を通る時はいつでも「輝きのあたる野木の子」の看板を横目に車を走らせている。卒業してからもあじさいマラソンや少年野球の応援等で度々野木小学校へは訪れる機会があつたが校舎の中へ入ったことがない。昔と変わらない私の知っている野木小学校を思い出させるものは二宮金次郎の銅像と校門だけだ。私にとつて目を閉じると思い浮かぶ野木小学校は古い木造校舎、小さい校庭、ぶらんこ等の遊具、そして回りの風景で曲がりくねった道や川だ。それらは故郷の原型みたいなものだ。校門を入って右へ歩いて行くと校庭のはずれにうんていがあり、その近くにクローバーが生えていて持つっていると幸せになれるという四葉のクローバーを探したり、別名しろつめ草といわれる花で花冠を作つて遊んだりした事を思い出す。なにしろ四十年も昔の事。生きる為には忘れる事をモットーに(忘れやすい性格ともい

これからは与えられた人生を精一杯楽しく、又微力ながら地域のお役に立てるよう努力せねばと思えます。最後に、なりました、母校のご発展と、会員の皆様のご健勝をお祈りします。

うが)生きてきた私には記憶の断片ばかりしか浮かんでこない。

野木小学校時代で覚えている校長先生は高塚に住んでおられた故出口喜太郎先生だ。出口校長先生は大きなお腹をされていて、柔道か何かしておられたような体型で、いつも両手に生徒をぶらさがらせてくれた。私も先生の腕にぶら下がった記憶がある。今考えると両腕に二人ぶらさがったりに思っていた様に思うので、どこにそんな力があつたのかと不思議な気がしてならない。出口校長先生でもう一つ思い出すのは「一日一善」と言う名前のノートがあつた事だ。

思い出

第59回卒(昭和43年)

京都府相楽郡 柿原 あけみ

小学校を卒業して、三十五年にもなるのかと思います。卒業生の皆様お元気でいらっしゃいますか。若いころは都会に憧れて福井から出ていった人間ですが、年を重ねるとに小学生の思い出、特に登下校時の事が思い出されます。今でも山の風景は変わりなく

そのノートには一日一つは人の為に成るような善いことをしてノートに書き込み先生の机の上に置いて点検してもらう事だった。ノートに書く為に、又は書いて褒めてもらう為に何か善いことをしなくてはと一生懸命だった気がする。このノートは現在の学校教育にもあつてもいいのではないかと思う。

我々の育つた野木時代はみんな貧しかったし不便だったけれども心は今以上に豊かだった気がする。それは野木小学校の当時の教育が良かったからだと思えてならない。

実家に帰るとその当時と同じ様な気持ちになれます。

朝の集団登校。今では考えられませんが早くみんな集合してゴム飛びやマンガ本を読んでから学校に行つたと記憶しています。冬は特に大雪の時、みんな列を作り六年生を先頭にただただひたすら黙々と歩いて

いき苦しいながらもその中に、新雪をふむ楽しみ、雪景色のすばらしさを感じ、学校に着いてホッとする充実感。カッパズボンに氷がいつぱいつぱいでいて大笑いなど。一時間目を迎える前にいつぱいつぱいのし事があつたように思います。

下校は、みんなで話をしながら草花を材料にいろんな物を作つたり小川に魚がいるのを見てたのしんだり、考えてみると自然の中で無理なく遊ばせてもらつていたと思います。今の便利な時代の少し前の世代で、これはとても幸せな事であつたと思えました。今生きていく時に何らかのエネルギーになつていのではない

私の中のふるさとの思い出

第61回卒(昭和45年)

東京都八王子市 奥田 宗一



大きくなつて悩みなどで心が非常に狭く一点にしぼられてたいへんな時など、自分の心を自然の中に遊ばせ、限りなく広く持つことにし、無理することなくしようと思つた。なんと心が落ちつきます。このような気持ちの原点は、自然の中で無理なく遊んだ小学生時代だと考えられますし、今でも私が自然体で生きられるのではと思ひます。

ではまとまりのない文章で申しわけありませんが、皆様御多幸をお祈りして、失礼致します。

野木小学校を卒業して三十四年ふるさとを離れて二十八年が過ぎました。サラリーマンとして転勤生活が続きましたが、五年前から今住んでいる東京の八王子に落ちつきました。

ふるさとは、都会と違い季節の景色がしっかりとありま

杉山に住んでおり、約四〜五kmの道を歩いて通いました。

普通に歩けば一時間程で行けると思いますが私達は毎日のように遅刻していました。思い出となつていのは、校内の出来事より、それぞれの季節、色々な遊び(道草)をしながら通つた通学の思い出です。

特に思い出すのは、ぐんと冷えた冬の朝、朝日がキラキラと一面をおおっている雪を照らしていると、私は大喜びでした。それは、道を歩かなくても、凍てた雪の上を歩けるため、普段歩けない田んぼの上、丘の上、どこでも行けるからです。坂になつているところは、ランドセルから下じきをだし、ソリにしてすべる。そんなことをしながら学校へ行くので、当然遅刻ということになりました。他にも、その季節により、色々な遊びをしながら通学したことを思い出します。

折にふれ、そういつたことが思い出されますが、そのほとんどのが、中学、高校時代ではなく、小学校時代のもので、小学校時代に見たもの、体験したことが、自分の中でふるさとの思い出のほとんどの部分を占めているように感じます。

小学校の思い出

第87回卒(平成8年)

京都市 河原裕司

小学校時代はとにかくよく遊んでいたという思い出がたくさんあります。僕が小学校の時の同級生は僕を入れて九人という少人数でした。そのせいか、九人ともみんな仲良く、結束力が強かったように思います。また個々の能力も高くいろんな場面で活躍していたと今でも思います。連合体育大会や、音楽会などでも人数の多い他校に負けない活躍ができたと思っています。当時、そんな仲間達を小学生ながら、誇りに感じていたことを今でも覚えています。僕とはとにかく体を動かす事が大好きで昼休みはもちろん、朝、授業の始まる前や、授業間の十分ほどの時間、また放課後などグラウンドや体育館に出て、バスケット、サッカー、ドッジボールなどをやっていた事もとても印象に残っています。授業間にも遊びに行くので、夏はもちろん冬も汗をかいて授業を受けていました。

高学年になってからは、野

の大学に在学中で今年二十歳になりました。この二十年間家族や地域の方々、先生方などいろんな人のお世話になりました。そしてこれからもお世話になります。支えてくれる人達への感謝の気持ちを忘れずにこれから先もがんばっていききたいと思っています。

野木小学校の思い出

第87回卒(平成8年)

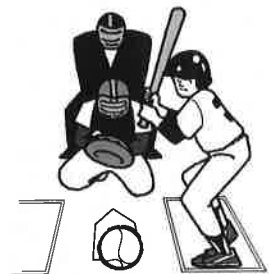
大阪市 山田真由美

今回、野木小学校同窓会報への原稿を書かせて頂くこととなり、小学校時代のことをたくさん思い出すことができ、よかったです。私が小学校に入学したのは、平成二年です。今から十三年前のことだと思えば私も大きくなつたなあ。とびつくりします。小学校の六年間は、本当にのびのびと過ごしていました。私はTVゲームもせずに、家でも学校でも外で遊んでいました。休み時間になると、校庭で一輪車をしたことがとても印象に残っています。二、三年生の時の担任だった宮川先生も一緒になって一生懸命でした。バックをしたり、校

庭の端まで転ばずに行けるかみんなで競い合ったりしていい緒になって遊んで下さったことは、とてもありがたいことだっと思います。

学校の行事では、五年生の時に初めて町の音楽会に参加し、小太鼓をさせてもらったことを思い出します。私はなかなか上手に出来なくて岡本先生に個別に指導をして頂いたこと。そんな中でも本番では成功し、大きな喜びを得たこと。私が本番に強くなったのもきっと小学校の色々な出来事があったからだと思います。

私たちの学年は、九人と大変人数の少ないクラスでした。



私はそのクラスの人数を今もネタのようによく話しています。九人しかいなくても、もめたこともあったし、女対男で喧嘩をしたこともありました。でも普段は仲良く、元氣だけは誰にも負けない、家族のような温かい関係だったと思います。みんなと長い時間過ごせたことをうれしく思っています。みんな今は連絡をとっていませんが、変わらずに元氣でやっているでしょうか。

私は今、大阪に出て学生をしています。こちらに来て、今まで気づかなかった虫の声、水のおいしさ、人の温かさ等、地元の良いところを知ることが出来たと思います。小学校時代に、カニを捕りに行ったり、山に基地を作ったり、虫を捕まえたりすることも、大阪の小学生ではなかなか出来ないことです。野木で育ち、たくさんさんの自然の中で様々な経験が出来た私たちは本当に幸せだと思います。これから先も子供たちが自然の中で遊べる環境を壊さないでほしいです。私の大好きな野木のイメージをいつまでも守ってほしいと思います。



上中町家庭の日啓発作文コンクール



でん車にのったよ

二年 新田としひと

おとうさんが
「なつまつり、でん車で行く
けー。」

と、言いました。ぼくはでん
車でこのえきまで行くんか
なーと、おもいました。

なつまつりの日、おとうさ
んとおかあさんとおねえちゃ
んとぼくと車で新ひらのえき
まで行って、そこからおばま
えきまででん車にのりました。
でん車の中は、こんでいたの
でぼくだけあいたところにす
わって、おとうさんたちは、
たっていました。十五分ほど
でおばまえきについて、つぼ
八でごはんを食べました。お
かあさんも、少しだけおさけ
をのんでいました。それから
八じになったので、花火を見
に行きました。おかあさんと
おねえちゃん、花火をじつ
くり見ていたので、ぼくは、

おとうさんと二人でお店を回
りました。

かめすくい、くじ、ヨ
ーヨーつりをしました。

でん車のじかんも、ちかづ
いてきたので、おかあさんた
ちとまちあわせをして、おば
まえきまでいそぎました。か
えりのでん車も、いつばいだ
ったので、四人ともたつてい
ました。新ひらのえきについて、
おとうさんが、
「さあ、いえまで歩くぞ。」
と、言いました。

四人で歩きはじめ、とこ
ろどころにしかあかりがなく
くらかったけどみんないっし
よだったのでこわくなかった
です。はしの中に、へんな
虫がいました。

いろいろな話をしながら歩
いていたので、おもったより
早くつきました。

おかあさんが、
「二十分くらいでついたなー。
二人ともがんばって歩いた
なー。」

と、言ってくれました。

少しつかれたけど、とても
楽しかったです。こんどは、
もう少しでん車でとおくまで、
行ってみたいなーとおもいま
した。



野球で知ったこと

四年 辻本晃士

ぼくは、去年の九月から「上
中JBC」で野球をしています。
この一年間、ほとんどの土・
日はグラウンドで仲間と野球を
してきました。ぼくは足もお
そいし、ふつきんや、うで立
てふせもとてきつくて苦し
いんです。それでも、それ以上
に先ばいや仲間とすごす時間
が今のぼくには楽しくて楽し
くてたまりません。JBCに入
ってからは、今まで知らな
かった人とも友だちにもなれて、
野球の他にも仲良く楽しくや
っています。五・六年生の先

ばいたちも、とてもやさしく
してくれます。それに野球で
は打つても守つてもすごくて、
ぼくも早くあんなふうになり
たいなあとおがれています。
JBCでは、野球の他にも
いろいろな事を教えてもらい
ます。その一つに、練習の最
初と最後に必ず全員で「上中
JBC心得」を言います。

「上中JBC心得」

- 一つ、物を大切にする。
- 二つ、大きな声でしっかりとあ
いさつをする。
- 三つ、進んで勉強をする。

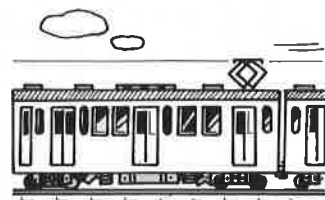
「晃士は、三つとも守れてな
いなあ。」

と、お母さんによく言われる
けれど、この心得を言ってる
時は真剣で、守ろうと言う気
持ちは、いっばいあります。
なかなか守れないけれど、と
ても勉強になるいい言葉だ
なあと思っています。

今年のお盆に、六年生最後
の県大会があり、ぼくもみん
なといっしょに福井まで応え
んに行きました。この大会が
終わると六年生とはお別れな
ので、ぼくはいつもより大き
な声で応えんをしました。お
母さんも、この大会が近づい
てきたら毎日のように

「さみしい。さみしい。」

と何回も言っていました。試
合はともせつせんで、最高
にもり上がったけれど残念な
がら一点差のあと一歩と言う



ところで負けてしまいました。とても、くやしかったです。その日の先ばいは、ぼくにはとても大きくカッコよく見えました。

近くの公園に集まって全員でミーティングをしました。かんとく・コーチから六年生一人一人に試合の感想や思い出が語られました。かんとくもコーチも、六年生も、ぼく

たちも、みんなのお父さんもお母さんも、全員泣いていました。今までいっしょに苦しい練習してきたメンバーが一つのわになったようでした。最後に、六年生から、お父さんやお母さんたちにお礼のあいさつがありました。

「お父さん・お母さん。今まで、野球をやらせて下さって、どうもありがとうございます。ありがとうございました。」

ぼくは、この言葉を聞いて、ハッ！としました。今までぼくは「野球をしている。」と思っていたのに、六年生は「やらせて下さって。」とあいさつをしていました。そうなんだ。しているんじゃないんだ。やらせてもらっているんだ。ぼくは初めて気がつきました。グラウンドでは、かんとくやコーチがいつも野球のやり方を

しどろして下さいます。そして、球ひろいや、トイレそうじ、お茶などは、みんなのお父さんやお母さんがして下さいます。着ているユニフォームも、帽子も、バットもグローブも、全部お父さんに買ってもらった物です。ぼくは、本当に、ドキッとしました。「ありがとうございます。」と心の中で思いました。



私のひいおばあちゃん

六年 高木理名

六年生がいなくなつて、今は四、五年生二十一人での練習が始まりました。九月になつたら新しいメンバーも入つてきます。ぼくは今までよりももっと一生けん命に練習をして上手になりたいと思つています。かんとくや、コーチや、お父さん・お母さんのおかげだと言ふことをわすれずがんばります。

ました。なつばあちゃんに、「何見とるの。」と聞くと、「理名ちゃんの写真見とったんや。」と言つたので私は、「うわー。」と言つてしまいました。なつばあちゃんが私の写真を見ながらうっとりしていたので、びつくりしました。

私は、お母さんから聞いていた事を思い出しました。なつばあちゃんは、「理名が学校から帰つて来るのをいつも待つとるんや、外ばっかり見てるわ。ひまやつたら顔見せたりなよ。」と、よく言つていました。

私には、とても元気な、ひいおばあちゃんがいます。お母さんの親もとのおばあちゃん、年は九十三才です。私の家の近くのので、よく遊びに行きます。おばあちゃんの名前は、「なつ」と言つのですが、私は「なつばあちゃん」と呼んでいます。なつばあちゃんは、私が行くととても喜んで「何年生になつたんや、大きくなつたな。」と、とってもうれしそうな顔

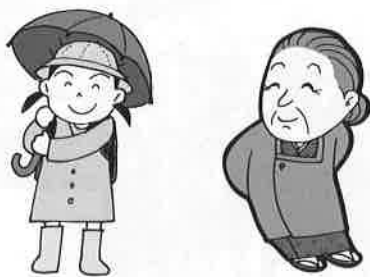
なつばあちゃんは、外へ出かける事もあまりなくて一週間に、一度のデイサービスを楽しみに待つています。デイサービスに、行く日の前には、うれしそうに、「明日やな。やすらぎセンターへ行くのは。」と私にも聞いてきます。また、やすらぎセンターから帰ってきた時なんかは、「今日は、おもしろかったわ。友達とも会えたし。」と作ってきたおり紙や写して

「うん」といつて急いでなつばあちゃん

もらった写真を見せてくれます。

私も、おり紙なんかを見ると気分が楽しくなります。私は少しでも時間があったら、なつばあちゃんとお話したいなあと思ひました。

私が中学校へ行つても、私の帰つて来るのを待つていてほしいし、高校へ行つても、まだまだ元気な、なつばあちゃんいてほしいです。そして長生きして私の花よめ姿を見てほしいです。大好きな、これからも、がんばつて、元気でいてください。笑顔のすてきな、なつばあちゃん、いつまでも私の事を、見守つていてね。





うちのじいちゃん

六年 伊藤 史織

「ブルルル。」

「はい、もしもし。」

「あつ、史織。今、ゆなみで、じいちゃんが、黒い血、はいたらしいんやつて。今から病院行くし、まっとつて。」

私は、「やばい。大丈夫かな。」と思いつながら、電話を切りました。

そして、さとしにもその事を伝えました。

「プオオオ。プップー。」

「史織、さとし早く来て。」

車の中では、たけきもいました。

私は、心配で、胸が「ギューウウ」つとしめつけられました。

車の外も、もううす暗くなつてきていました。私は、ドキドキして、何も考えずに前を見ていました。でも、ドキドキは、おさまりません。私は、お母さんに、

「なあ、じいちゃん、今、大丈夫なんけ。」

と聞きました。今まで、ムツとしていた、お母さんが、

「アハッ。大丈夫、大丈夫。全然、命に、かわつてないらしいわ。でもなあ、じいちゃん、もう年やし、心配やわ。」

と言つてくれました。私のドキドキは、少しおさまりました。それから、ずっと私達は、だまつていました。病院につくと、

「じゃ、待つとつてな。」

と、お父さんと、お母さんだけ、行つてしまいました。

また少しして、お父さんが来ました。

「さあ、いくぞ。」

私は、病院に入ったしゅんかん、またドキドキしてきま

した。病院の中は、明るく、私達は、お父さんと、お母さんがいる、部屋の前のイスに座っていました。

私は、

「なんか話しとる。なんの話

しやる。」

と、思いながら、病室をのぞきました。

見て、すぐ左に、お母さんと、お医者さんが、話していました。

お父さんも、しんけんです。奥の方に、どこの病院も、使

つてる、ベージュのカーテンがありました。私は、

「あそこに、じいちゃんがおるんか。」

と思いましたが。私達は、ずううつと、待つていました。

たけきが「ねむい。」

と言いました。私はしかたなく、たけきをおんぶしました。

私も、少しねむくなつてきました。

でも、ずっと、たけきを、おんぶしてました。そしたら、お母さんが、部屋から、出て

来て、

「じいちゃん、これから、少し、病院に、とまらなあかんし、

パジャマとか、いろいろたりんし、近くまで、買いに

いこ。」

と、言いました。私は、たけきを降ろしました。

たけきは、

「ねむい。」

だまつてついでにきました。車で十分ぐらいの所に店がありました。そして、少しして、お母さんが、たくさんのふくろをもつてきました。また病院にもどりました。私達は、車の中で、まつていました。少しして、お父さんと、ずっと、じいちゃんにつきあつてくれたゆなみの人が、車に乗つてきました。お父さんは、

「本当にありがとうございました。」

と、何回も言つていました。私も、いっしょに、

「どうもありがとうございました。」

と言いました。それから少しして、家に着きました。そして、みんな、すぐねました。次の日から、お母さんは、病院に通っていました。

二カ月かして、じいちゃんは、退院しました。とつてもうれしかったです。じいちゃんには、これからも、ずっと長生きしてほしいです。



* 林間学校 *



* 修学旅行 *

○私の将来の夢は、お医者さんです。小さな子どもを病気を治したいです。

伊藤史織

○ぼくの将来の夢は大工さんです。大工さんになつてつばい家を建てたいです。

植野祐介

○ぼくの将来の夢は、プロのサッカー選手になることです。プロになつて、いろいろな強いチームと試合をしたいです。

大橋享平

○ぼくの将来の夢はプロ野球選手です。練習して松井秀喜選手のように活躍したいです。

奥本甚岳

○ぼくの将来の夢は、車屋になることです。いろいろな車を知りたいです。

小野元多良

○ぼくの将来の夢は、まだはつきり決まっていけど大工さんになりたいです。大工になって自分の家を建てたいです。

倉谷晋平

○ぼくの将来の夢は、バスケットボールの選手です。日本で活躍して、外国でプレーしたいです。

小山善康

○私の夢は、舞妓さんになることです。京都へ行くついでかわいい着物を着て、いろいろな人の前におどつて、喜んでもらいたいです。

高木理名

野木小学校 6年生

夢の将来

○私の将来の夢は、学校の先生になることです。いろいろ教えてあげたいです。

田中育絵

○ぼくの将来の夢はプロ野球選手になることです。プロ野球選手になつて活躍したいです。

田中惇也

○ぼくの将来の夢は、車の整備士になつていろいろな車をなおしたいです。

西 竜佑

○将来の夢は、プロ野球選手です。一度サヨナラホームランを打つてみたいです。

西野淳一郎

○将来、私は薬剤師（医療関係）の仕事につきたいです。そして、みんなの役に立ちたいです。

新田美穂

○ぼくの将来の夢は、大工さんになることです。おじいちゃんが大工をやっていたので、かっこいいと思ひなつてみたいなあと思ひました。

森井大地

○私はイラストが描ける仕事をしたいです。キャラクターのデザインなどをしてみたいです。

山形真由

○将来の夢は、漁師になることです。つばい魚を捕りたいです。

山本勇貴

○ぼくの将来の夢は、プロ野球選手です。大活躍してお金持ちになりたいです。

渡辺寛紀

平成14年度 野木小学校同窓会会計決算書

〔収入の部〕

項目	14年予算	14年決算	増減	備考
繰越金	34,924	34,924	0	
会費	299,000	301,000	2,000	1,000円×301戸
広告掲載料	0	0		
雑収入	500	10,011	9,511	寄付 石塚礼子氏 10,000円 貯金利息 11円
繰入金	0	0	0	
合計	334,424	345,935	11,511	

〔支出の部〕


項目	14年予算	14年決算	残額	備考
会議費	20,000	1,266	18,734	会報編集委員会缶茶
事務費	10,000	13,755	△3,755	コピー代、会報送付用封筒
通信費	100,000	100,311	△311	会報郵送料、会報寄稿依頼状郵送料等
会報費	100,000	148,710	△48,710	会報印刷代、寄稿謝礼図書カード
記念品費	5,000	5,000	0	卒業生記念品
総会費	20,000	14,005	5,995	理事総会茶菓子、缶茶
特別会計費	60,000	30,000	30,000	特別会計へ繰り入れ
予備費	19,424	0	19,424	
合計	334,424	313,047	21,377	


収入決算額 345,935円 支出決算額 313,047円 = 32,888円 残金32,888円は平成15年度へ繰り越します。

監査の結果、正確に執行されたことを認めます。

平成15年3月31日

監事

森 克孝 

倉谷 清一 

編
集
後
記

野木小学校同窓会報第十六号をお届けします。お忙しい中、原稿執筆の依頼を快くお引きうけくださった皆様、玉稿をお届けくださりありがとうございました。おかげで充実した紙面となりました。厚く御礼申し上げます。

さて、今回の役員改選で異動がありましたのでお知らせします。二期四年会長をされた

新田賢氏が退任されました。後任に副会長だった田中庄之祐氏が就任されました。副会長の倉谷宏氏も退任されました。幹事の一部や監事にも異動がありました。長い間、この会の振興に尽くされた皆様ありがとうございました。

平成十五年度の役員は次のとおりです。(敬称略、順不同)

○会長 田中庄之祐(杉山)

○副会長 福井康二(兼田)、正木重雄(中野木)

○理事 杉山・竹村次夫・竹村助雅、堤・宮田隆一・森康裕・中村悟、兼田・東山忠彦・

山本清茂、武生・清水勇雄・清水久和、玉置・奥本衛・勢

馬栄一、上野木・居関庄治・

倉谷俊次、中野木・橋本淳治・

武田秀行、下野木・田中孝明・

上野政之

○顧問 森口良造(学校)

○幹事 居関正幸(上野木)、内藤肇(堤)、川瀬新一(学校)

○監事 区長会監事

○編集委員 中村悟(堤)、山田隆志(武生)、居関庄治(上野木)

同窓会のおもな事業として、この会報の編集、発行があります。会員の皆様には、積極的な投稿等により、活気のあ

る紙面となるよう御協力をお願いいたします。また、印刷、発送の費用は、野木地区にお住まいの皆様から納入いただいている同窓会費から支出されています。例年、五十通前後が不明ということで戻ってきています。転居の際、転居の通知をいただいている方もあります。これからの住所変更の際には、野木小学校同窓会にも御連絡いただけるようお願いいたします。

末筆ながら、会員の皆様のお健勝をお祈り申し上げます。